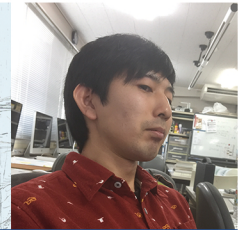
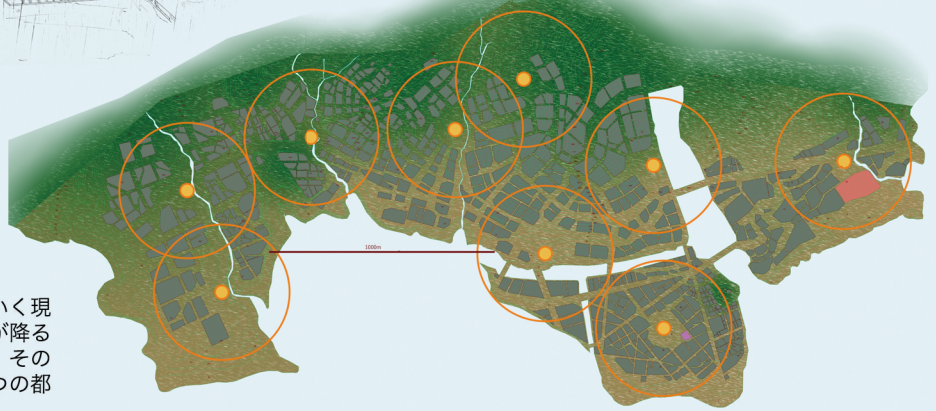
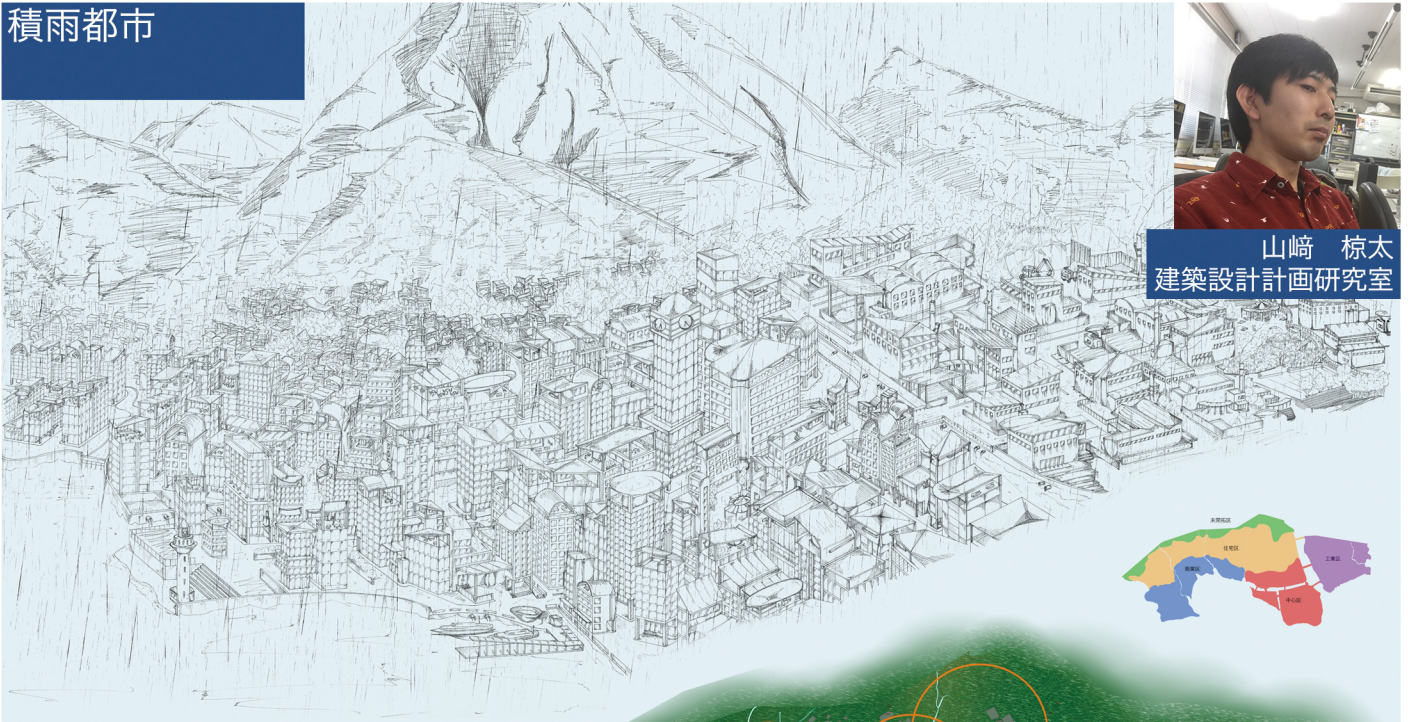


# 積雨都市



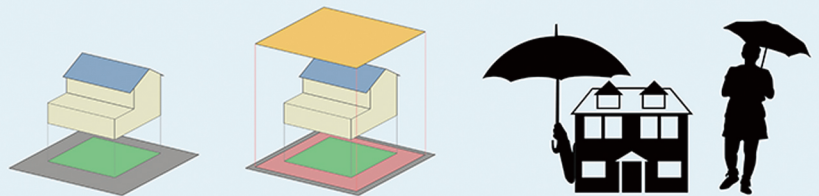
山崎 稜太  
建築設計計画研究室



## □コンセプト

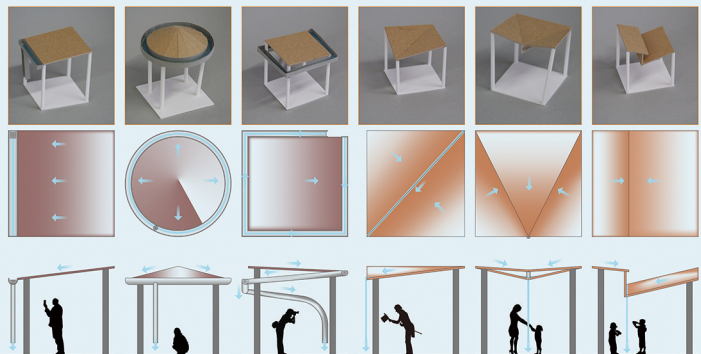
地球温暖化の影響で降雨日数が増えていく現代において近い将来ほとんどの日に雨が降るような世界になるのではないかと考え、その場合建築はどのように変化するかを一つの都市としてまとめた。

変化点は大きく分けて5つで、植物や人々の変化、屋根の変化、一般的な住宅やビルの変化、太陽への対応とそれに伴う建物の変化、雨水への対応と利用です。



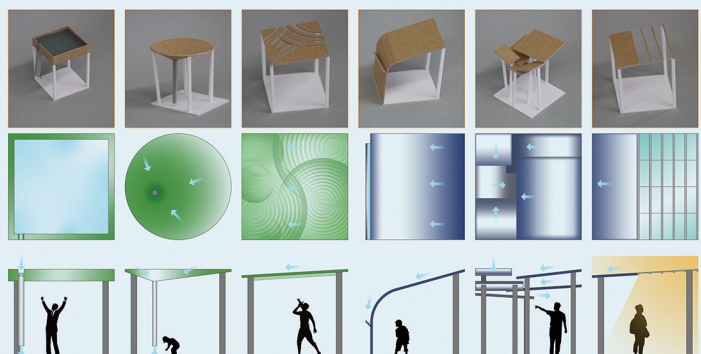
## □プログラム

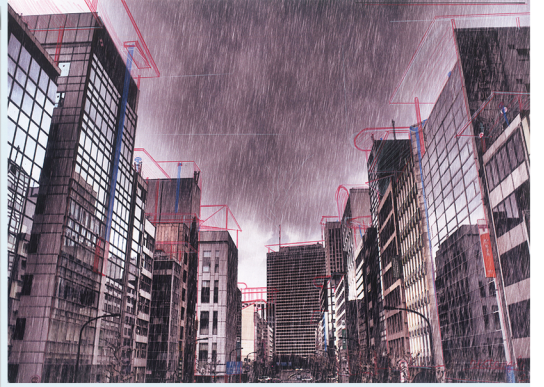
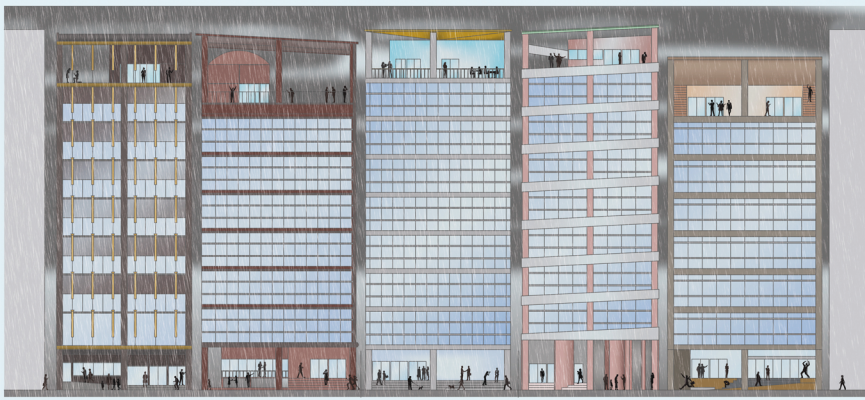
通常の建物には敷地に建物がたち、その建物が屋根が付随するがこの都市では雨を集めるために敷地の90%を大屋根として使用できるようにし、それが敷地とセットということが基本となり、従来の敷地に建物を建てるということから、屋根のある半屋外空間に建物を建てるという考えに変化していくのではないだろうか。



## □デザイン

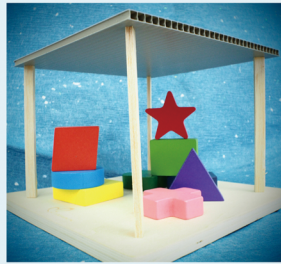
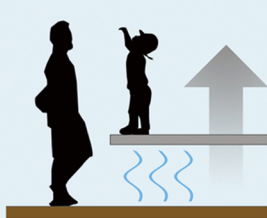
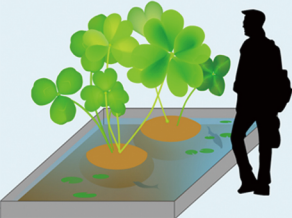
どの設計においても雨を利用するという点は同じで雨水の利用を促す役割を持ちながらも建物のデザインに反映させていくことがこの都市ならではの、建築のあり方になっていき人々は雨と生活を共にしていく。SF的な仮想都市ではあるが、現実性を少し加えることで共感を多く得られるようなものをデザインした。





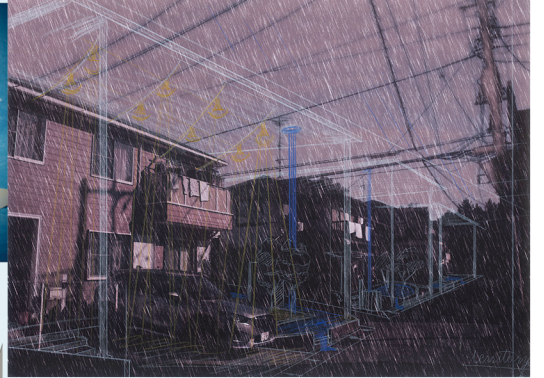
緑の重宝化

一階床レベルの上昇



植物は多雨な環境により減少し、人々は多雨な環境でも育つ植物をより大切にしていくと考えられる。

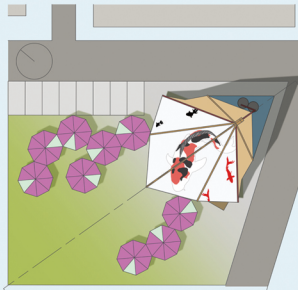
雨による湿気は長期となれば建物の劣化が早まる危険が出てくる。これを回避するため1階の床を高くする



4大変化

雨水を生活水へ

雨水を電力へ



電力の変換に使用した雨水をトイレや洗浄などの生活水に当てることで使用生活水の節約が期待できる

太陽光発電は雨により効果が薄まってしまふ。そのため人々はその雨を電力に変えようとするだろう。

